

花図鑑

はなずかん

第2回

“不満と怒り” その構成要素のエッセンス

・・・フラワーエッセンスの基本的な使い方②・・・

1日の中で全然関係のないテーマのエッセンスを交互に使うよりは、テーマを明確にして、優先順位をつけて、数週間ごとに一つずつ、順番に使っていった方が分かりやすいでしょう。もちろん朝に活力をつけるために、夜には鎮静のためになどその時々を使うのはよいでしょう。



東 昭史 (あずま あきひと)

アロマセラピー業界での勤務を通じてフラワーエッセンスに出会う。大槻真一郎氏に師事。植物の特徴表示をテーマに、フラワーエッセンスを研究。各地でフラワーエッセンス講座を開講し、個人セッションを行う。2007年4月、著書『花と錬金術』出版。現在に至る。

アンダー&フラストレーション

<コンポジットエッセンス>

このエッセンスは、3つのエッセンスから構成されています。レッド・ポピー、ファイアーソーン、ホリー・リーフです。これらの植物の共通点はあざやかな赤色。レッド・ポピーは赤い花、ファイアーソーンとホリー・リーフは赤い実をつけます。私たちは常に自分の持っている情熱のバランスをとる必要があります。情熱が少なければ無気力となり、多すぎれば怒りとなって溢れ出すこともあります。このエッセンスは自らの情熱をコントロールすることを助けてくれます。色彩療法では赤色は怒りや情熱を引き出す色であると言いますが、このエッセンスは反対に怒りを鎮めてくれます。感情的になることなく、情熱のエネルギーを建設的に用いることができるように助けてくれるでしょう。

レッド・ポピー <エクストラシングルエッセンス>

11月11日は第一次大戦の終戦記念日。イギリスではこの日、レッド・ポピーをかたどったバッチを胸につける人が見られます。戦後、戦没者を埋葬した墓地にレッド・ポピーが一斉に咲いたというエピソードから、レッド・ポピーは戦没者の霊を慰める花となったのです。レッド・ポピーのエッセンスは、過度の情熱のあまり怒りを爆発させ、破壊的になってしまうような時、その情熱を安定させることができるように助けてくれます。抑えがたい怒りを鎮めて心穏やかにしてくれるエッセンスです。

ファイアーソーン <エクストラシングルエッセンス>

ピラカンサの名前でしられる植物の一種。ピラカンサの語は、赤い実と枝にとげがあることから、ギリシア語の「炎」と「とげ」に由来します。ファイアーソーンを必要とするのは、エネルギーが不安定で浮き沈みの激しい人。抑圧した感情を爆発させたかと思うと、しばしばパニックに陥り、一転して自分の内に引きこもってしまう人たちです。このような人に、ファイアーソーンはバランスを取り戻し、エネルギーを自らコントロールできるように助けてくれます。

ホリー・リーフ <エクストラシングルエッセンス>

クリスマスが近づくと、あちこちでホリーの飾りを目にするようになります。和名はセイヨウヒイラギ。鋭いとげをつけた葉と真っ赤な実は、いずれも怒りを象徴しているかのようです。ホリーの葉のとげは動物たちに食べられないように身を護るためのもの。ですから、このエッセンスの働きには「防御」という一面があります。ホリーの葉のとげが草食動物を遠ざけるように、ホリー・リーフは私たちが怒らせるものから遠ざけ、挑発にのらないようにしてくれます。